



両小野国保診療所

はいつ店を閉じるか予想がつかないが。

【答】 全体のコーディネートは可能である。商業面では専門的な知識が必要であるので、商業コンサルタントに委託していく。

◆まちづくり会社の整理は

【問】 まちづくり会社はシャッター通りに見切りをつけたのではないか。塩尻商工会議所は出資金や取締役派遣は考えていないと言いが、市も出資金は回収すべきではないか。

【答】 取締役の退任は資本の増強や人材確保の整備が達成できなかつたことが要因であり、見切りをつけたのではない。出資金は活性化協議会の今後の行動を見て決定したい。

【問】 国道19号と都市計画道路

【答】 高校北通線交差点信号機設置は、長野国道事務所及び長野

県警察本部と設置の方向で協議を進めている。

◆九里巾交差点の四車線改良は

【問】 政権交代による九里巾の四車線改良はどうなったか。

【答】 11月末までに九里巾交差点を中心として南北延長約900mの測量が行われ平成22年度では概ね4～5億円の予算要望をしている。

◆高原通りの交差点改良は

【問】 高原通り線は渋滞道路であり早急の改良が必要と思うが。

【答】 交差点改良は渋滞解消の有効な手段であり事業化が可能であるか検討していく。また諏訪倉庫北側については道路の拡幅改良及び交差点改良を並行して優先的に検討していく。

◆両小野国保診療所の運営は

【問】 診療所は9月末時点で赤字額が2千500万円に達し経営状況は依然として厳しいが経営の安定化を図るべく無床化すべきと考えるがどうか。

【答】 経営改善を図ったが診療報酬が低くなり年度末には6千万円が生じるものと想定している。可能な限りの改善の方策や損益勘定留保金からの補填も視野に入れ運営を検討

したい。無床診療所への移行は経営研究委員会で協議したい。

**新政会**

質問者 金田 興一  
牧野直樹・金子勝寿  
質問持ち時間50分

**中心市街地の活性化策は**

◆イトーヨーカ堂撤退と空きビルの活用策は

【問】 再確認したい。市の考え方は、一・二階の後継テナントの目途がついた時点で議会に諮りヨーカ堂と交渉に入る。三階については、商業以外の民間施設や公共の集会場、子育て支援施設等が考えられると言うことで理解してよいか。

【答】 三階は、ヨーカ堂から商業以外の民間施設、公共施設をと呼びかけられている。

◆塩尻まちづくり会社について

【問】 塩尻商工会議所から、今の会社をそのまま引き継ぐことは非常に困難、との回答、大株主としての市の対応は。

【答】 必要不可欠な組織であるので、意欲のある若者が立ち上げれば支援も可能。最近、若手商業者が立ち上がってきたとの話を聞いている。



50周年事業「ふるさとまつり」でにぎわいを見せるイトーヨーカ堂前

◆地下水を守る取り組みは

【問】 水道水源を保全するため特に必要な区域として市の申出により知事が指定するものとして、ゴルフ場の建設、廃棄物の最終処分場等を規制しているが、現在市内に指定されている地区はあるか。

【答】 現在指定している所はない。現在策定中の、水道ビジョンのなかで位置づけを検討していく。

◆東山地区に産業廃棄物最終処分場の計画がある、予定地周辺の地下水脈調査はどのように行っているか。

【答】 特に行っていない。古文書等で現状把握している。

【問】 自己水源から取水の各浄水場における浄水費用は。

【答】 全体では、m当り30・51円、床尾59円、芦ノ田48円、小曾部61円、片丘100円、上西条42円、規模の小さいもの、規模に対して配水量の少ないものは割高な状況にある。

◆水需要動向、水道施設の統廃合について

【問】 平成19年度の年間配水量は、18年度比45万m余の減、沓沢水源の35万m余、烏川水源の39万m余を超えるが統廃合の予定は。

【答】 節水器具や節水意識の向上により、平成20年度有収水量は19年度比4.1%の減少。今後も減少が予想されるため、水源施設も含めた水道施設の統廃合やポンプ施設の削減等を基本構想、水道ビジョンで取りまとめていく。

◆国民健康保険財政について

【問】 国保財政の見通しは。

【答】 5年間連続で税率を据え置いてきたが、歳入・歳出収支額から前年度繰越金を差し引いた単年度経営収支が年々減少しており、出来るだけ早い時期に方向付けをしていきたい。